

# 樹状突起スパインの形成・維持・可塑性 ～ドレブリン研究40年の歩みと未来～

日時：令和2年2月23日（日） 午前の部 10:00～ 午後の部 13:20～  
場所：一橋講堂 中会議場 3,4 （千代田区一ツ橋 2-1-2）  
参加費：無料

総合司会：花村健次

開会の挨拶 白尾智明（群馬大学副学長・医学系研究科教授）

午前の部 「ドレブリン研究とその発展」（座長 田中聡一）

- 10:05～10:25 「ドレブリンが脳からなくなるとどうなるのか？～ドレブリンの分子クローニングとノックアウトマウスの解析～」 児島伸彦（東洋大学）
- 10:25～10:45 「樹状突起形成のための微小管重合核形成」 林謙介（上智大学）
- 10:45～11:05 「眼優位可塑性とドレブリン」 今村一之（前橋工科大学）
- 11:05～11:25 「アクチン結合タンパク質としてのドレブリン～タンパク質再構成系による解析～」 石川良樹（県民健康科学大学）
- 11:25～11:35 「ドレブリン結合タンパク質の同定と機能解析」 山崎博幸（群馬大学）
- 11:35～11:45 「超解像顕微鏡によるドレブリン局在解析」 小金澤紀子（群馬大学）
- 11:45～11:55 「培養神経細胞におけるドレブリンクラスターの自動解析法とその薬物等の効果の検出における有用性」 花村健次（群馬大学）

（昼休憩）

午後の部 「シナプスの形成と可塑性」（座長 山崎博幸、小金澤紀子）

- 13:20～13:50 「Synaptic biology of the major psychiatric disorder risk factor ankyrin」 Peter Penzes (Northwestern University)
- 13:50～14:20 「A screen for molecular mechanisms of synaptogenesis: a journey from drebrin toward synaptic organizers」 Hideto Takahashi (Montreal Clinical Research Institute)
- 14:20～14:50 「Redox biology mechanisms involved in axon elongation」 Christian Gonzalez-Billault (Universidad de Chile)

（休憩）

- 15:00～15:30 「NMDA receptor activity and drebrin exodus from dendritic spines」 Yuko Sekino (The university of Tokyo)
- 15:30～16:00 「The relationship between drebrin and NMDA receptors within hippocampal spines of adolescents exhibiting maladaptive behavior」 Chiye Aoki (New York University)

特別講演 （座長 熊倉鴻之助）

- 16:00～16:45 「ドレブリン研究40年の歩みと未来」 白尾智明（群馬大学）

閉会の挨拶 関野祐子（東京大学大学院薬学系研究科特任教授）